

日本精密測器

新製品は中国とインドネシアの生産子会社で製造し日本に逆輸入する



自社ブランド血圧計拡販

欧州基準に合格 量販店など店頭で

血圧計などを製造販売する日本精密測器（群馬県渋川市、君浦康友社長）は欧州の学会基準に合格した血圧計3機種を開発したのを機に、自社ブランド血圧計の販売先を広げる。これまでは通信販売が主だったが、11月にも家電量販店など一般店舗での販売を始める。同社は年間約300万台の血圧計を製造するが、その9割はOEM（相手先ブランドによる生産）供給。店頭販売を広げブランド認知度を上げる。

3機種、海外向けも計画

日本精密測器は自社で生産した血圧計を、ドイツの医療機器会社などにOEM供給するほか「NISSSEI（ニッセイ）」ブランドで販売する。開発したのは家庭向けの上腕式デジタル血圧計2機種と、手首式デジタル血圧計1機種。性能面では、被験者の数や測定条件が細かく定められ最

難関とされる欧州高血圧学会の「2010年版臨床精度評価試験」に合格し、精度が高い。また著名な工業デザイナーである川崎和男氏が監修し、大きく見やすい表示方法や測りやすい形状などを採用した。メーカー希望小売価格は4980〜7980円。9月から大手の家電量販店1社で試験販売したところ好調だったため、11月にも家電量販店やド

ラッグストア、調剤薬局などに販売を広げる。これまでの製品はカタログやインターネットでの通信販売が主だった。

生産コストを抑えるため、手首式は中国、上腕式はインドネシアの生産子会社で生産し、日本に逆輸入する。また日本で発売した3機種をベース

に多少手を加え、海外で販売することも計画する。海外では「日本製」のニーズが強い国もあるため、その場合は渋川市の本社工場で生産する。

3機種合わせて、国内外で年間60万台の販売をめざす。この新製品の発売でニッセイブランドを内外で広め、今後は他の

測定機器でも、自社ブランド製品を投入したい考えだ。日本精密測器の11年3月期の売上高は約54億円だった。